

国立大学法人鹿児島大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

鹿児島大学は、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程の基盤となる共通教育の改善を図るとともに、専門教育の質を保証するシステムを確立すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、共通教育科目の学習・教育目標とカリキュラム・ポリシーを策定し、共通教育科目を「人間力養成プログラム」と「専門基礎力養成プログラム」に再構築して平成25年度から開講することを決定するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、獣医学教育の改善・充実を図ることを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成24年度においては、山口大学との共同獣医学部の学生の受入れを開始し、初期教育科目等を統一シラバスにより実施するとともに、双方の学生が互いに移動して専門科目を集中講義として編成するほか、遠隔講義システムを有効活用した講義等を実施している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 女子学生のキャリア形成支援の一環として「輝く女性研究者たち—鹿児島大学ロールモデル集—」を発行し、新聞で取り上げられたほか、女性限定公募や能力が同等であれば女性を優先して採用するプラスファクター方式を導入するなど、女性研究者の採用を促進しており、女性研究者の比率は15.0%（対前年度比0.9ポイント増）となっている。

平成24年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 平成23年度評価において評価委員会が課題として指摘した、大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が平成21年度から24年度において90%を満たさなかったことから、今後、速やかに、学長のリーダーシップの下、組織の在り方も含め、抜本的な対応が求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、大学院専門職学位課程において学生収容定員の充足率が 90 %を満たさなかったこと等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の節減、
③資産の運用管理)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 14 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 卒業生に対する広報活動を充実するため「鹿大ジャーナル」を送付 (34,301 名) するとともに、受験生及び保護者向けに大学紹介ビデオ「潜入!! KADAI SCOPE」を作成しウェブサイトに掲載するなど、広報体制の充実と積極的な情報提供活動に取り組んでいる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 23 年度に開始した山口大学との大学間バックアップ実証実験については、シス

テムのバックアップについて検証を行うとともに、情報セキュリティ体制の整備を進めている。

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組が求められる。

【評定】 中期計画の達成のために向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 13 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成 23 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 共通教育科目の学習・教育目標とカリキュラム・ポリシーを策定するとともに、共通教育科目を、人間の基本要素である実践・判断・精神・知・身体・コミュニケーション力を養成する「人間力養成プログラム」と、専門教育を学ぶための基礎力養成を主眼とした「専門基礎力養成プログラム」に再構築し、平成 25 年度から開講することとしている。
- 社会人向けに履修証明プログラムを 5 件（うち 2 件は新規）開講し、新規開講の「稲盛経営哲学プログラム」では鹿児島県域の社会人を対象に、経営者や地域社会のリーダーとして活躍する人材を育成している。
- 学生自らが企画・運営・実施するプログラムを援助する「進取の精神チャレンジプログラム」を平成 25 年度から実施する制度構築を行うとともに、サイエンス・インカレ（文部科学省）への応募を支援するため「サイエンス・インカレ支援要項」を定め、4 組を支援している。
- 国際島嶼教育研究センターでは、ミクロネシア連邦コスラエ州でのデング熱流行に際し、世界保健機関（WHO）及び同州政府に、蚊の分布調査結果を提供するとともに、対策への助言を行っている。
- 医用ミニブタ・先端医療開発研究センターでは、医用ミニブタを用いたブタ・サル間の異種肺移植実験を世界に先駆けて開始するとともに、ブタ・ブタ間の同種移植において、組織適合性抗原確立 GalT ノックアウトミニブタを国内で初めて作成しており、その成果が国際異種移植学会誌に掲載されている。

- 薩摩川内市と次世代エネルギーに関する協定を締結し、太陽電池モジュールの信頼性に対する火山灰・火山性ガスの影響調査研究プロジェクトを実施するとともに、第3回産学官交流会「かごしまの次世代エネルギーと活用事例」においてその取組成果を発表している。
- 北米教育研究センターでは、将来国際的な場で活躍できる研究者、技術者、教育者、起業家、弁護士、会計士等を養成する夏季実習コース「国際プロフェッショナル養成プログラム in カリフォルニア」に加えて、アルバータ（カナダ）、ハワイ、シンガポール、香港のコースを新たに開講し、全11コースに150名の学生が参加している。
- 若手教員海外研修支援事業に新たに北米枠を設け、米国、英国、フランス、ドイツ、スイス、スウェーデン等に11名の若手教員を派遣し、約1,880万円の支援を行っている。
- 熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための教育関係共同利用拠点「かごしま丸」では、6つの大学・研究科が共同利用し、航海日数中の共同利用率が33%に達するとともに、平成25年度は国内の9つの大学・研究科（東京大学、熊本大学、放送大学が新規利用）とフィリピン大学ヴィサヤス校が利用することとなっている。
- 学部と附属学校園が共同で教職課程履修カルテを構築し、レーダーチャートやグラフによる評価の可視化を図るとともに、教育実習における評価の観点詳細表を作成している。

附属病院関係

（教育・研究面）

- 「慢性心不全に対する和温療法（入院患者のみ該当）」（先進医療 B）及び「急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再生構成を利用した定量的 PCR 法による骨髄微少残存病変（MRD）量の測定」（先進医療 A）が先進医療として承認されている。

（診療面）

- 感染症対策として、一部の医療材料の規格及び洗浄・消毒等の運用手順を統一化したほか、蓄尿の抑制通知、感染制御部門と栄養管理部門を中心として食中毒対応マニュアルの作成を開始するなどの対策を行っている。

（運営面）

- 医療ソーシャルワーカー（MSW）を3名増員するとともに退院支援看護師を配置したほか、病床マネジメントワーキンググループを立ち上げ、空床の有効利用についての検討を行うなど、退院支援体制の強化・整備を図っている。